

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい  
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

熊本YMCAの使命  
共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進  
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)  
■ブログ [kumamoto-ymca.wablog.com](http://kumamoto-ymca.wablog.com)  
■メールマガジン登録  
[www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)



●発行所/ (財) 熊本YMCA / 〒860-8739 熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代  
●編集人/ 堀 雄二 ●発行人/ 堀 弘雄 2011年3月1日発行 (毎月1日発行)  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円 (送料60円)

## CONTENTS

- 1 児童虐待と傷ついていく脳
- 2 東部YMCA創立40周年/体操フェスティバル
- 3 熊本バンド 早天祈禱会/ステップ1 職員研修  
アガペNo.60「あなたの最良のものを」
- 2・3 event report  
児童福祉教育科卒業発表会/水前寺幼稚園発表会  
ボランティアデー/YMCA学院高等学校環境学習
- 4 Report 日中韓YMCA平和フォーラム  
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)  
東部YMCA/赤水保育園/YMCA学院高等学校

# 虐待で傷つく子どもたちの 脳とところを守り育む

虐待によって傷つく、子どもたちのことと  
身体。子どもたちが負う傷はそれだけではない  
ことが、昨今の研究で明らかになってきました。  
熊本大学大学院生命科学研究部小児発達学准教  
授の友田明美さんに、「児童虐待と傷ついていく  
脳」についてお話しいただきました。

## 子ども時代で終わらない児童虐待

小児科医として初めて児童虐待の症例に遭遇  
したのは、1987年、私がまだ右も左もわから  
ない研修医だった頃のことです。救急救命セン  
ターで当番をしていた時、脳内出血で男の子が  
搬送されてきました。全身にタバコの火を押し  
付けたような火傷の痕を見つけ、事故じゃない  
ことを悟りました。3日間、必死で看病しまし  
た。男の子は助かりませんでした。これは私に  
とって非常に衝撃的な出来事でした。以後、「児  
童虐待」を何とかしなくてはという思いから、ラ  
イフワークとして取り組んでいます。

児童虐待には身体的暴力のほか、ネグレクト  
(育児放棄)、言葉の暴力などによる精神的虐待、  
性的虐待などがあります。昨年、虐待の被害に  
遭った子どもたちは4万4000人。虐待児童  
は増える一方です。そして、虐待者の6割が実  
母、2割が実父というのが現実です。

子どもの時に虐待を受けた影響は、子ども時  
代だけに終わりません。思春期、青年期、壮年期、  
老年期、人生のあらゆる時期に様々な形で表れ



## 脳に刻まれる癒されない傷

子どもから大人へ成長する発達過程で、脳の  
多重人格、「境界性人格障害」などに影響します。  
これは、他人を黒か白かでしか判断できず、安定  
した人間関係が築けない症状です。裏切られた  
と思つた瞬間に一転して反撃に出るなど、ス  
トーカー犯罪はこの典型例だと言われています。  
しかし、このような問題行動は虐待の経験に  
よるものだと認識されず、治療できるのにそ  
のまま放置されるケースも多いようです。

## わたしと聖句

ヤコブの手紙第1章2節  
わたしの兄弟たち、いろいろな試練に  
出会うときは、この上ない喜びと思ひ  
なさい。  
若い日の試練の有益  
私は宣教師として熊本に派遣され  
る直前、失恋を経験した。彼女が私の  
申し出を断ったのは宣教師の夫人と  
して生きる自信がなかったのが理由  
だった。何とも哀れな気持ちだった。

気を取り直し、自己憐憫から免れるの  
には相当時間がかかった。その時、私  
を引き立てたのがまさにこの聖句  
だった。  
人は誰でも順調で、健康な人生を  
願っている。しかし、現実はそのよう  
ではない。ほとんどの人が試練に出会い、  
逃げたり、隣人を攻撃したり、自分の  
感情を抑えたりすることになる。しか  
し聖書は、試練を運が悪いからとか、  
避けたいといけないとか、自分が犠牲  
になるような対象としては見てない。  
かえって、オプシオンではなく必須科  
目として、希望を生み出す手段とし

て、信仰のテストとして、知恵の人と  
して造り変えてくださる神様の愛の  
表現として見ている。  
『霊の戦い』という本の一節を紹介  
したい。「私たちが迫害し、攻撃する人  
たちこそ、実は私たちが人間として神  
の子として造り変えられていくこと  
を促進するのに天から送られて来た  
聖者なのだ。決して私たちの敵ではな  
い。むしろ私たちの守護聖人なのだ。」  
若い日の試練、苦しまないで聖書から  
その有益を得ようではないか。  
熊本聖書教会協力宣教師  
朴 哲浩

## 癒されない傷に立ち向かう

21世紀最大の課題は「子どもたちの心のケア」  
だと思えます。子どもの数が減少しているにも  
関わらず、虐待を受けている子どもが増加し  
ていることは大きな社会的な問題です。  
癒されない傷は治らない傷なのでしようか。  
たしかに癒されにくい傷ではあるけれども、最

容積も大きくなり、成熟して社会性のある思考  
を行うようになります。身体的な経験を通して  
発達していく中で、虐待という激しいストレス  
の衝撃により、子どもの脳に癒されない傷がで  
きてしまうことが、研究を重ねるにつれ明らか  
れてきました。  
米国ハーバード大学との共同研究で虐待経験  
のある人とならない人の脳を比較した結果、虐待を  
受けたことのある人に、より大きな脳の萎縮が  
見られたのです。子ども時代の虐待により、感情  
の中心である扁桃体が過剰に興奮し、大量のス  
トレスホルモンを分泌したことで、脳の発達に  
ダメージを受けたと考えられます。  
性的虐待を受けると、視覚から得た情報が蓄  
えられる視覚野が傷つき、長期的になれば傷も  
大きくなるのがわかりました。また、言葉の暴  
力では、聴覚野に影響が出ます。聴覚野は、ス  
ピーチや言語、コミュニケーションに重要な役  
割を果たしている領域です。言葉の暴力も虐待  
であることを忘れないでください。

最終的には治ることを願っています。早い時期に  
環境を改善し、適切なケアをすることで社会的  
な能力の備わった大人に成長します。安心して  
生活できる場の確保、子どもの生活学習支援、  
心理的治療も必要です。  
一方で、適切なケアがないと症状が長引きま  
す。虐待を受けた約6割の人が親になった時、自  
分の子に対して虐待を行うという「連鎖」が止ま  
らないのです。これを受け止めなくてはなりま  
せん。虐待された子どもが負ったこの傷は、  
簡単には癒されません。だからこそ、回復可能な  
うちに虐待を発見し、社会的な支援を行ってい  
くことが重要なのです。  
親子の絆、人間の絆、こころの絆を育むこと  
は、健全な次世代をつくるために大切な作業で  
す。子どもたちの笑顔を取り戻すため、多くの  
人に伝えていきたいと思えます。

友田明美さん 1987年、熊本大学医学部  
医学研究科修了。医学博士。熊本大学医学部附属病  
院発達小児科助手、同小児発達社会学准教授を経て、現在、熊本大学大学院生命科学研究部小児発達  
学分野准教授。2003、2005年、マサチュー  
セツ州マクリン病院発達生物学的精神科学研  
究プログラムに留学、ハーバード大学医学部精神  
科学教室客員助教授。小学生の頃に、YMCAで英  
会話を学び、キャンプにも参加。阿蘇キャンプでの  
思い出は、今でも鮮明に覚えているとか。